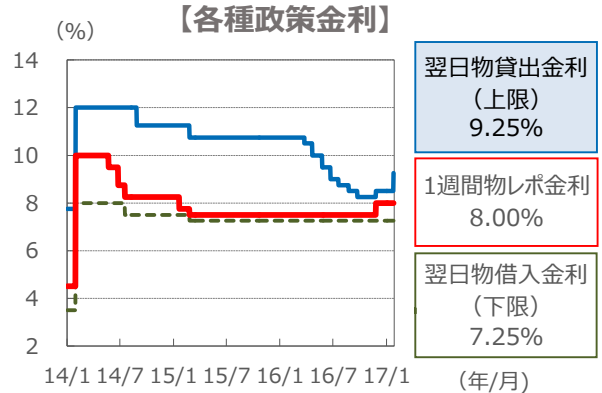


## 今日のトピック トルコの金融政策（2017年1月） 貸出金利を引き上げ

### ポイント1 貸出金利を引き上げ

#### レポ金利と借入金利は据え置き

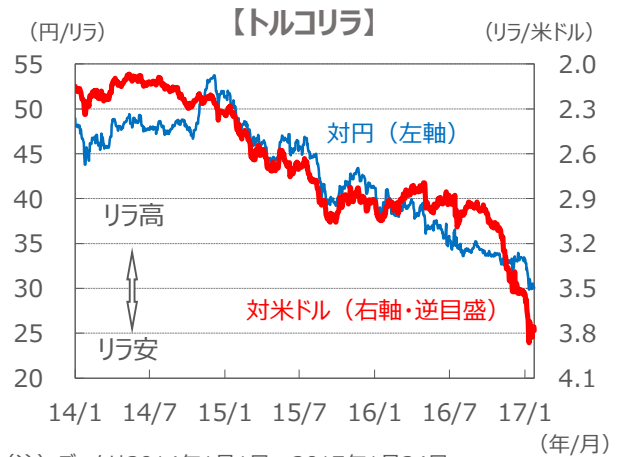
- トルコ中央銀行（以下、中銀）は24日に開催した今年最初の金融政策決定会合で、主要な政策金利のひとつの翌日物貸出金利を、市場予想通り8.50%から9.25%に引き上げました。
- ただし、1週間物レポ金利と翌日物借入金利はそれぞれ8.00%、7.25%で据え置かれました。市場ではレポ金利が0.50%、借入金利が0.25%引き上げられるとの見方が大勢を占めていました。



(注) データは2014年1月1日～2017年1月24日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 インフレ抑制が目的 景気に対しても配慮

- 声明文では、内需の鈍化がインフレの抑制に寄与はしているものの、前回会合以降のトルコリラの急落に加え、食品価格の大幅な変動により、インフレ見通しの上振れリスクが高まったことが、利上げの理由として挙げられています。
- もっとも、1週間物レポ金利と翌日物借入金利は市場予想に反して据え置かれました。景気が減速するなかで、金融政策に対する政治的な圧力が強まっていることを窺わせるものです。



(注) データは2014年1月1日～2017年1月24日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 トルコリラは当面下値模索の展開

- 市場では、インフレを抑制し、通貨を安定させるためには、大幅な利上げに踏み切ることが必要との見方が支配的ですが、景気が減速していることから、中銀が利上げを継続して実施できるのか不透明といえます。
- また、トルコでは、大統領権限に関する憲法改正案の是非を問う国民投票が4月初旬に行われる見込みです。それを控えての利上げは難しいと考えられます。これらから、トルコリラは当面下値を模索する展開になりそうです。

ここも  
チェック! 2016年12月21日 トルコの金融政策（2016年12月）  
2016年11月25日 トルコの金融政策（2016年11月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。